

早稲田大学 社会科学部 国語(現代文) 講評

〔総合分析〕

出題形式	全問マーク式
試験時間	60分(現代文1問、現古1問)

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「見ることについての脳の働き」がテーマの文章。出典：茂木健一郎の文章。

(本文字数：約 4100 字 = 昨年より約 1200 字増加。設問数：10 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問一	易	【漢字】2題。同音異字にはふだんから注意する。
問二	易	【語句の意味】基本的な語彙力が試されている。 は文脈からも判断できる。
問三	易	【脱落文挿入】空欄 の直前と、脱落文後半の対比から容易に判断できる。
問四	標準	【傍線部説明】各選択肢の「」内のキーワードの意味確認のため、文章全体を見る必要がある。結局、基本通り、直前の内容を指している。
問五	やや難	【傍線部説明】傍線部の直前、空欄 の直後、及び、空欄 の直後より判断する。3・4 がやや紛らわしいが、「空間性」についての説明が弱い。
問六	やや難	【空欄補充】1がやや紛らわしいが、空欄の直後の「...が息づいている」という語句とのつながり、及び、その後の具体例から判断する。
問七	標準	【傍線部説明】傍線部Eの2～3行前から判断できる。
問八	標準	【傍線部説明】傍線部の1～3行後の対比内容の両者を含んだものを選ぶ。
問九	易	【空欄補充】接続語補充。空欄の前後の関係から容易に判断できる。
問十	易	【内容合致】2の後半、及び、4の「「要約」せずに」が本文に反することは明らか。

〔総合コメント・今後の指針〕

大問一は、「見ることについての脳の働き」をテーマにした評論文。4000 字を超える長文で、昨年よりも 1000 字以上長くなった。ただ、具体例が多く示されていることもあり、文章内容はつかみやすい。設問は、問四・問五・問六・問七・問八、あたりで差がつくと思われる。本文から答えの根拠をしっかりと見つけたうえで選択肢を吟味しないと、紛らわしい選択肢にひっかかってしまう。あくまで本文に根拠を求めるといふ姿勢で臨む必要がある。

早稲田大学 社会科学部 国語(古典) 講評

〔総合分析〕

出題形式	全問マーク式
試験時間	60分(現代文1問、現古1問)

〔大問別講評〕

(二) 現古融合文。出典：森一郎の文章。

(本文字数：約 2600 字 = 昨年より約 300 字増加。設問数：9 = 昨年より1問減少。)

小問	難易度	コメント
問十一	易	【文法問題】4は連体詞。他は形容詞。
問十二	易	【文脈把握】直前の係助詞「こそ」、及び、直後の内容から判断する。
問十三	やや易	【文脈把握】直後の内容から考えれば容易。
問十四・イ	易	【古文単語】「いはけなし」は「幼い」の意。重要古語。
問十四・ロ	易	【古文単語】「まじ」は禁止の助動詞。
問十四・ハ	易	【古文単語】「すさびごと」は「慰みごと」の意。重要古語。
問十五・C	易	【文脈把握】直後の「不本意な運命」に着目する。
問十五・D	易	【文脈把握】直前の「紫上の死から」とうまくつながるもの。
問十五・E	易	【文脈把握】空欄Cの直後の「母、祖母、……死別したこと」がヒント。
問十六	易	【文脈把握】直前の内容と同内容の表現を古文から探す。
問十七・G	易	【文脈把握】直前の「冷泉院の出生の秘事」、次の行の「くちをしき契り」がヒント。
問十七・H	やや難	【文脈把握】空欄の8行前から空欄の1行前までの内容から判断する。4が紛らわしいが、「遺憾な」が本文の内容からずれる。
問十八	標準	【漢字】前後から「ケイ合」が「つながり」に近い意味の語と分かれば容易。
問十九	易	【内容合致】紛らわしい選択肢もなく容易。

〔総合コメント・今後の指針〕

大問二は、現古融合文。昨年と同様に、現代文と古文との対応をおさえて解く設問はあまりなく、純粋な古文の読解力や知識が問われる設問がほとんどだった。設問のレベルが低いので、合格するにはかなりの高得点を取る必要があるだろう。現古融合文が出題されるからといって油断することなく、古文の学習をすすめてもらいたい。なお、『源氏物語』の人物関係を知っていれば、本文をかなり容易に読むことができる。受験までに『国語便覧』などで有名作品のあらすじや人物関係をおさえておくとうい。